

## 全国学力・学習状況調査の結果から…

4月に実施された学習・学力状況調査から見てきた本校の子どもたちの様子をお知らせします。この結果をもとにして、学校と保護者とが協力し合って、子どもたちの学力アップにつなげていきたいと思えます。

結果の概要を以下に示します。調査は国語、算数ともにA問題とB問題があります。また、質問紙では、学習に対する関心・意欲・態度や生活習慣を調査します。

A問題: 基礎的・基本的な知識や技能が身についているかどうかをみる問題

B問題: 基礎的・基本的な知識や技能を活用することができるかどうかをみる問題

質問紙: 学習に対する関心・異様・態度や生活習慣をみる調査

それぞれの教科ごとの正答率を全国の正答率と比較します。

「◎」…高い 「○」…やや高い 「□」…ほぼ同じ  
「△」…やや低い 「▲」…低い

国語		全体	関心・意欲・態度	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語に関する こと
A問題	全国との比較	□		▲	◎	△	▲
B問題	全国との比較	□	△	□	□	△	

算数		全体	関心・意欲・態度	数と計算	量と測定	図形	数量関係
A問題	全国との比較	□		□	□	□	□
B問題	全国との比較	△		△	□	□	□

それぞれの教科において、もう少し細かくみると以下のことが明らかになってきました。

### 【国語A】…主として知識…

全国平均を上回っている・同程度	全国平均を下回っている
<ul style="list-style-type: none"> <li>○手紙の書き方（手紙の後付けに日付・署名・宛名を書くことやその位置）</li> <li>○目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読む</li> <li>○俳句の情景を適切に捉える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△話し合いの場面の文章を読み、報告の説明として適切なものを選ぶ→課題文の内容理解が乏しい</li> <li>△漢字を書く…同音異義語の漢字の書き取り 【参加対象】誤答例：対称・大賞・対照 【箱が置いてある】→無回答が多い。</li> <li>△古文の言葉の響きやリズムを感じ取り、説明として適切なものを選ぶ→問題文を正しく読み取れていない</li> </ul>

### 【国語B】…主として活用…

全国平均を上回っている・同程度	全国平均を下回っている
<ul style="list-style-type: none"> <li>○目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す。</li> <li>○目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く。</li> <li>○登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えて書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△「話の構成を工夫して話すことができる」等のスピーチメモの良さを捉える→問題文をそのまま写し、問題に合った形で記入できていない。</li> <li>△相手を説得するために必要な引用文を選ぶ→「説得するため」には客観的なデータが効果的であるということについて理解が不足。</li> <li>△物語文を読み、具体的な叙述を基に、理由を明確にして自分の考えをまとめて書く。→具体的な叙述は選び出せているが、そこから自分の考えを書くことができていない。</li> </ul>

【算数A】・・・主として知識・・・

全国平均を上回っている・同程度	全国平均を下回っている
<p>○2つの数の最小公倍数の求め方を理解している。</p> <p>○高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解している。</p> <p>○立方体の展開図から、面と面の位置関係について理解している。</p> <p>○資料をもとに二次元表の合計値を求めることができる。</p>	<p>△加法と乗法が混合した整数と小数の計算をすることができる。→式に書かれている順番で計算し、計算のきまりを使っていない。</p> <p>△小数と整数の加法の計算をすることができる。→位を揃えて計算していない。</p> <p>△割り算の答えを分数で表すことができる。→問題文に「分数」とあるのに小数で答えている。</p> <p>△未知の数を□として問題場面を式に表すことができる。→問題場面が正しく理解することができていない。（除法か乗法か）</p>

【算数B】・・・主として活用・・・

全国平均を上回っている・同程度	全国平均を下回っている
<p>○示された資料から必要な情報を選び、答えを導き出すことができる。</p> <p>○式の中の数が表す意味を資料の表と関連づけながら考えることができる。</p> <p>○飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判別することができる。</p>	<p>△例で示された方法を問題場面に適用して問題を解くことができる→例で示されている「きまり」が把握できていない。</p> <p>△割合で示されている内容を正しく理解し、基準量と比較量の関係を表す図を判断できる。→何を「もとにする」のか問題文から読み取れていない。</p> <p>△例で示された考え方を理解し、数を変更した場合も同じ考えが適用できることを図に表現することができる。→問題文に書かれている言葉を使っていない・説明の文章が誰にも分かる文章になっていない。</p>

以上のような結果をもとにして、本校では、次のような取り組みをしています。

- 1時間の授業で、子どもたちが身につける力（授業のねらい）をはっきりさせ、わかりやすい授業を推進していきます。
- 子どもの考えが深まったり、広がったりするような意図的な働きかけをし、学ぶ楽しさを味わったり、思考力を深めたりすることができるような授業の工夫を行っていきます。
- 火曜日や集会のない水曜日の朝の「あやめタイム」において、文章読解力をつけるための問題に取り組んでいます。
- 毎週月・水の8：00～8：15は、原則として読書タイムとし、語彙を増やし、物語文等に親しむ時間を確保しています。
- 会議等の設定のない月曜日の5校時終了後に「寺子屋タイム」を実施し、補充学習を進めています。
- 算数指導において、4・5年生では1クラスの人数を減らした少人数指導や複数の教員によるティームティーチング指導を取り入れています。

今後の取り組みの詳しい内容と、質問紙の結果については、次号に掲載します。